令和3年度から始まった「大阪府独自の学力テスト」

「すくすくウォッチ」は、子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力及び問題発見・解決能力を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的としており、「わくわく問題」、教科の問題から構成されており、児童アンケートも行われます。

	わくわく問題	国語	算数	理科	児童アンケート
5年生	○	○	○	○	○
6年生	○	—	—	○	○

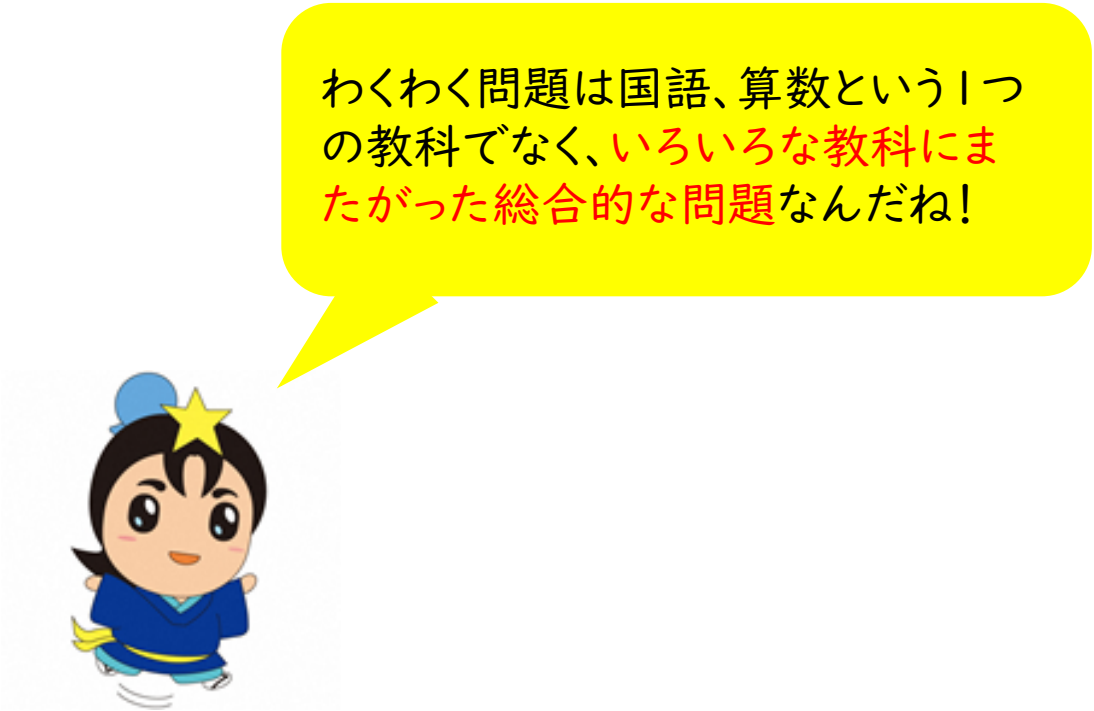


令和8年度は5年生はわくわく問題・国語・算数・理科・が
6年生はわくわく問題・理科が
実施されたよ。

わくわく問題（教科横断型問題）【5・6年生】

「わくわく問題」とは、大阪府の小学生向け学力調査「すくすくウォッチ」で出題される、文章や絵、図、表、グラフなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題です。答えは記号を選んだり、文章を書いたり、図や絵をかいたりします。答えが1つでないものもあります。

大阪府教育委員会　児童・保護者リーフレットより





大阪府の小学生が挑んだわくわく問題がこちら！

（5･6年生共通の問題です。）

(2)　図で相談を整理した後、中村さんが「デジタル観光案内」の画面について提案してくれました。


中村さん

相談が整理されたので必要な機能がわかりやすくなりましたね。私は、緊急時に相談できる機能もあればよいと思いました。
解決したいことに合わせた画面を作り、その画面を組み合わせるとよさそうですね。次の５つの画面で作っていきましょう。

画面の名前	画面の内容
トップ画面	「デジタル観光案内」を始めると最初に出る
「地図」画面	地図で場所を調べられる
「検索」画面	キーワードを入れると一覧表が出る
「説明」画面	検索で調べたことのくわしい説明を見られる
「相談」画面	緊急時に電話やチャットで相談ができる

続いて、「画面がどのように移動できたらよいか」について中村さんと考えています。


中村さん

説明の画面以外はトップ画面から移動ができるとよいですね。利用する人にとって使いやすいように画面と画面の間の移動を考えましょう。

かなたさんたちはみんなで話し合い、次のようにまとめました。

問題は次ページに続くよ。



わくわく問題とは

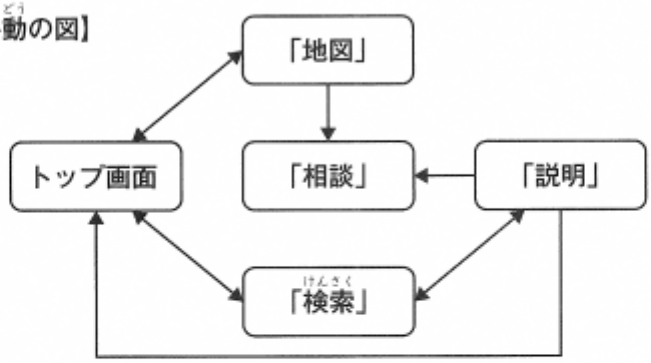
【みんなの意見】

- どの画面からもトップ画面にはもどれるほうが使いやすい。
- 「検索」画面から「説明」画面に行けて、説明を読んだら、「検索」画面にもどれるほうがよいと思う。
- 「地図」画面で観光地などを見つけたら、「説明」画面が見たいと思う。見終わったら「地図」画面にもどれると使いやすそう。
- 緊急時にすぐ使えるように、「相談」画面にはどの画面からでも行けるとよさそう。
- 相談をしているときにまちがって他の画面に行かないように、「相談」画面からはトップ画面にしか行けないほうがよいと思う。

問い 中村さんのお話と**【みんなの意見】**をもとに下の**【画面移動の図】**を作りました。中村さんのお話と**【みんなの意見】**をすべて満たして**【画面移動の図】**を完成させるには、**【画面移動の図】**にあと3か所矢印を加える必要があります。解答用紙の**【画面移動の図】**に必要な矢印を**3つ**書き加えましょう。

書き加える矢印はあとの**【矢印の種類】**から選びましょう。

【画面移動の図】



【矢印の種類】

⟷	矢印の両方に進んだり、もどったりできる。
→	矢印の先に進めるが、もどれない。

わくわく問題－12

解答例は最後のページにあるよ

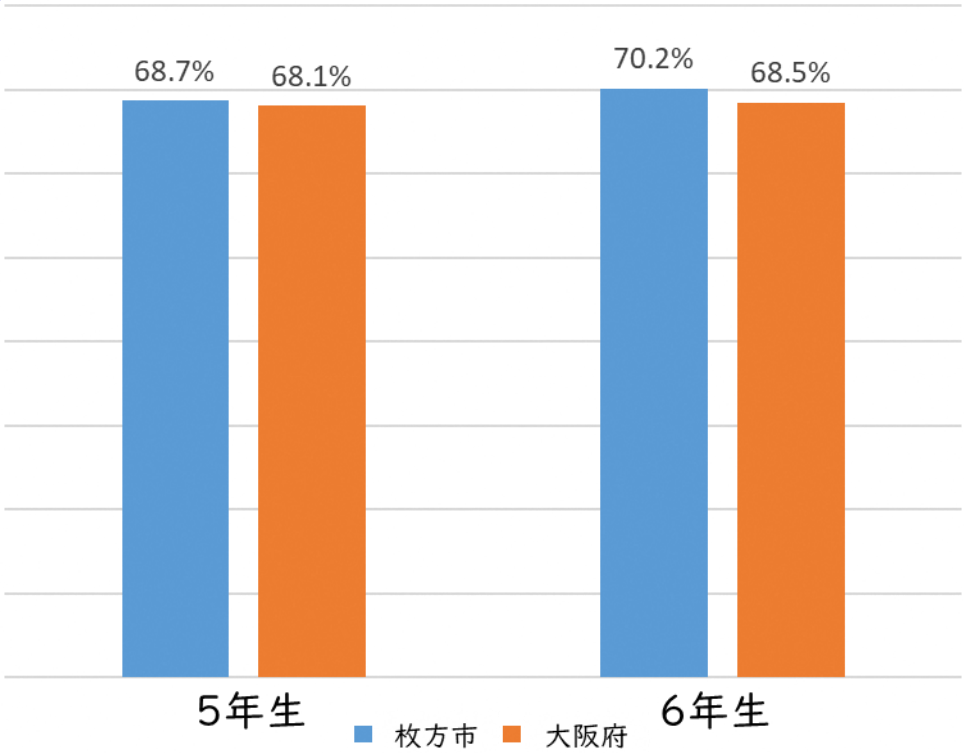


令和8年度 すくすくウォッチの結果<わくわく問題>

平均正答率

学年	枚方市	大阪府
小5	68.7%	68.1%
小6	70.2%	68.5%

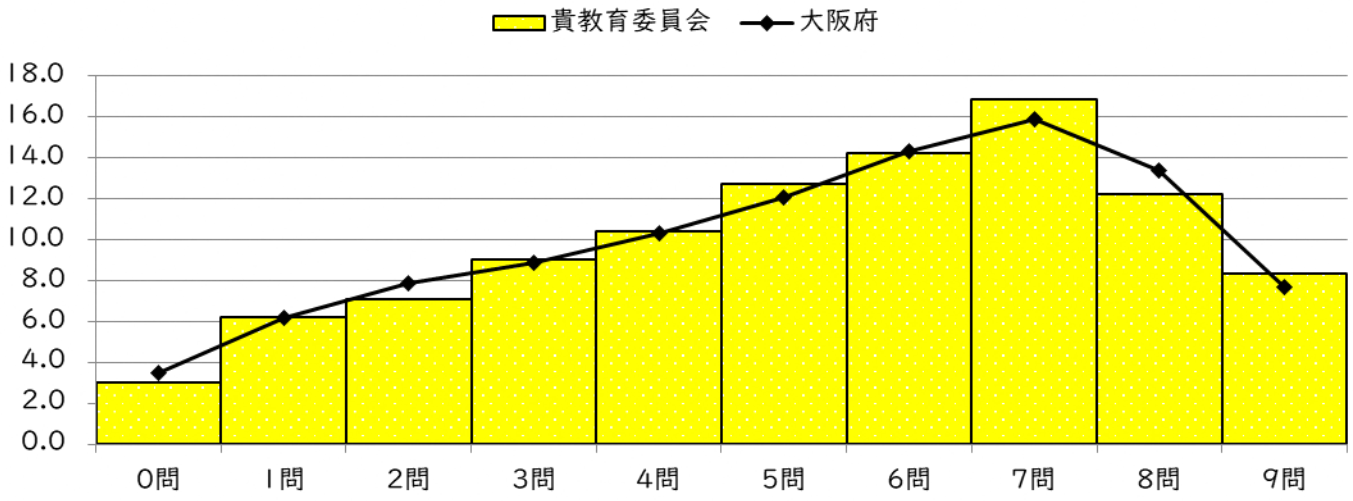
結果の推移（対大阪府）



今年のわくわく問題については、5年生、6年生ともに大阪府の平均を上回っている。

令和8年度 すくすくウォッチの結果<小5わくわく問題>

正答数分布グラフ



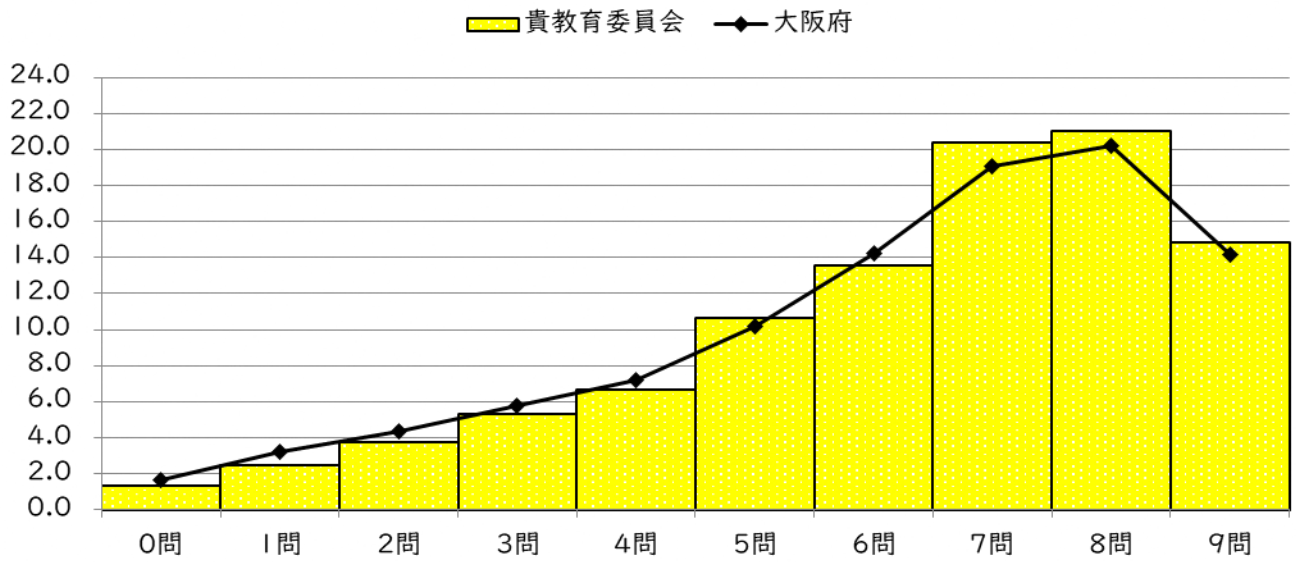
分類・区分集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率（%）	
			貴教育委員会	大阪府
全体		9	58.7	58.1
観点	A　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	5	57.7	57.5
	B　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	3	52.3	52.3
	C　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	2	61.7	60.9
	D　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	3	66.3	65.4
	E　興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	1	75.7	74.3
問題をとらえる	文章から読み取る	4	51.7	51.5
	会話から読み取る	3	54.7	53.8
	図や表から読み取る	7	62.7	62.2
伝える	資料の情報を整理して伝える	7	55.6	55.2
	自身で考えたことを伝える	3	66.3	65.4
	理由や根拠を明確にして伝える	2	61.7	60.9
問題形式	選択	4	48.7	47.6
	図表	2	67.3	68.3
	記述	3	66.3	65.4

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

令和8年度 すくすくウォッチの結果<小6わくわく問題>

正答数分布グラフ



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率（%）	
			貴教育委員会	大阪府
全体		9	70.2	68.5
観点	A　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	5	70.2	68.4
	B　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	3	64.8	63.8
	C　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	2	75.5	73.6
	D　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	3	78.2	76.6
	E　興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	1	83.5	82.5
問題をとらえる	文章から読み取る	4	65.7	63.7
	会話から読み取る	3	65.7	64.0
	図や表から読み取る	7	73.8	72.4
伝える	資料の情報を整理して伝える	7	67.2	65.5
	自身で考えたことを伝える	3	78.2	76.6
	理由や根拠を明確にして伝える	2	75.5	73.6
問題形式	選択	4	59.6	57.3
	図表	2	79.4	78.9
	記述	3	78.2	76.6

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

教科の問題【5・6年生】

「教科の問題」では前の学年までにそれぞれの教科で学習した内容が実施されます。5年生は国語・算数・理科が実施され、6年生は、全国学力・学習状況調査で理科が実施されない年に限り、理科が実施されます。

国 語	算 数	理 科
（小5）	（小5）	（小5・小6）

教科の問題は、前の学年までに学んだ基礎的な知識や技能と一緒に、思考力や判断力、表現力を問う問題なんだね。

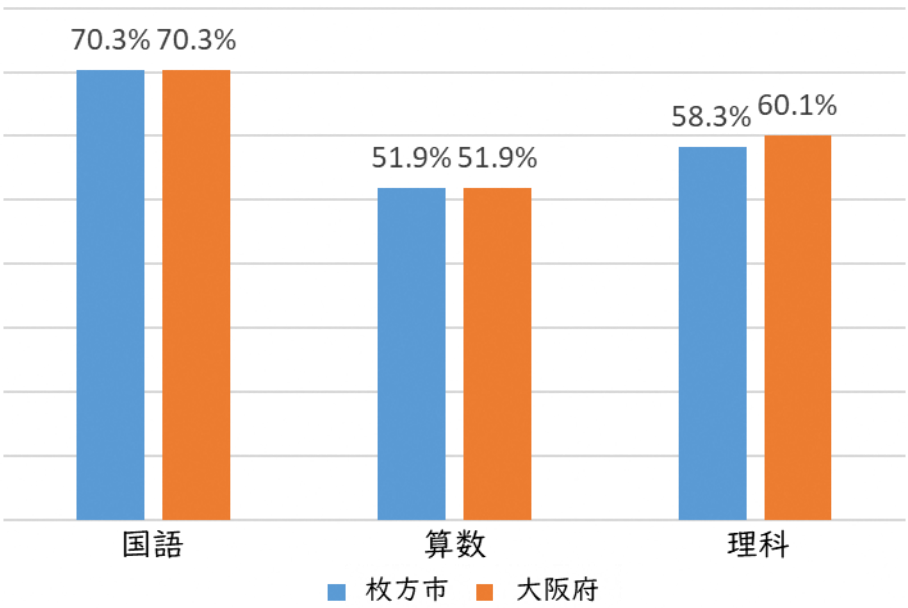


令和8年度 すくすくウォッチの結果＜ 小5 国語・算数・理科 ＞

平均正答率

小5	枚方市	大阪府
国語	70.3%	70.3%
算数	51.9%	51.9%
理科	58.3%	60.1%

結果の推移（対大阪府）



国語においては、大阪府の平均と同数である。
→ローマ字や指示語など言語に関する設問において課題が見られた。

算数においては、大阪府の平均と同数である。
→データの活用に関する設問において課題が見られた。

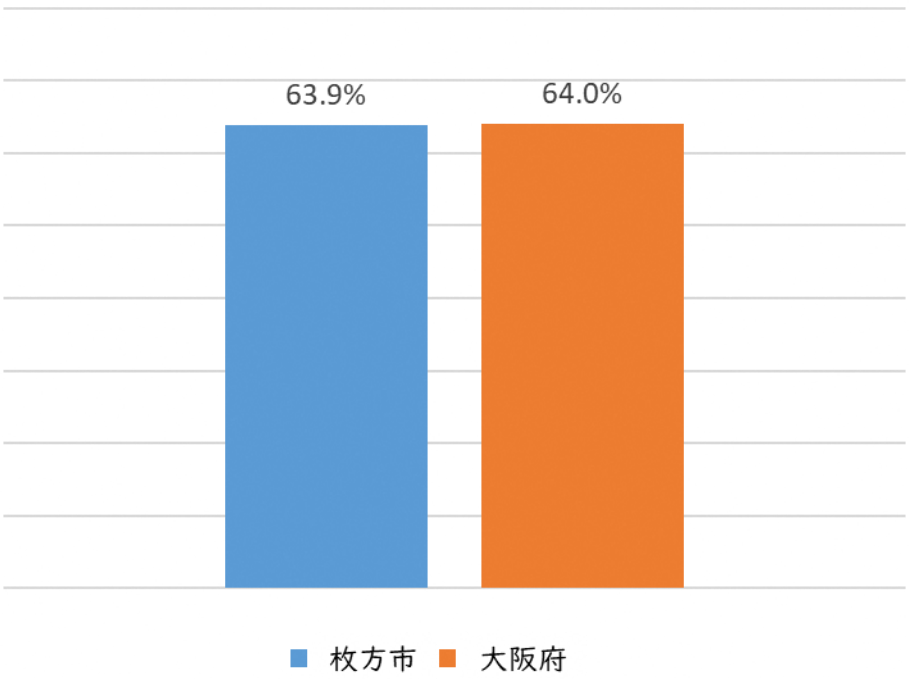
理科においては大阪府の平均を下回っている。
→「エネルギー」や「生命」について問う設問において課題が見られた。

令和8年度 すくすくウォッチの結果＜ 小6 理科 ＞

平均正答率

小6	枚方市	大阪府
理科	63.9%	64.0%

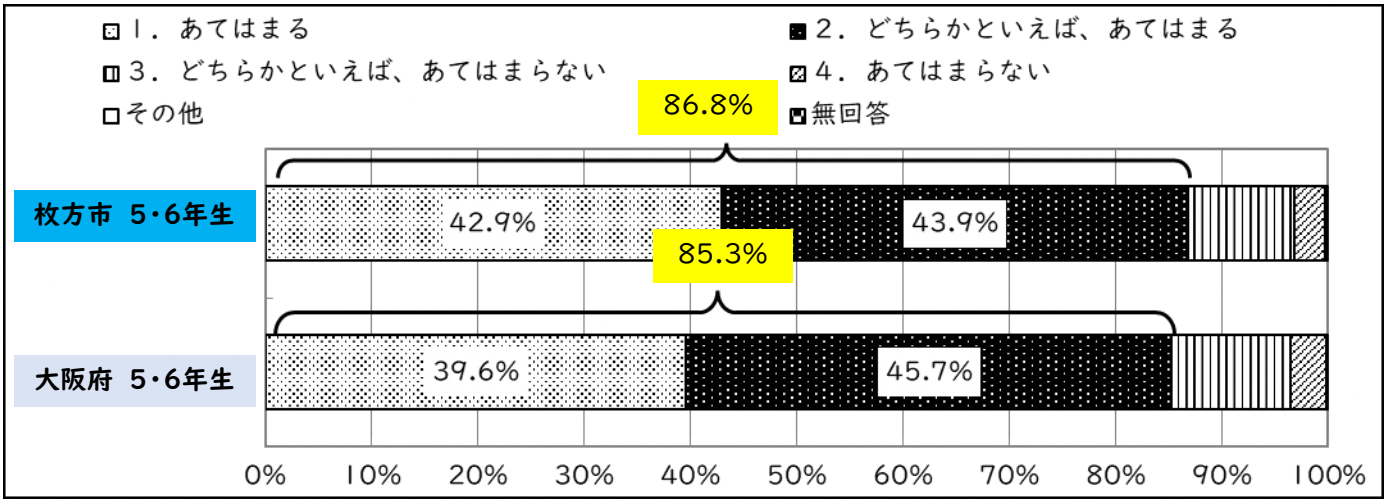
結果の推移（対大阪府）



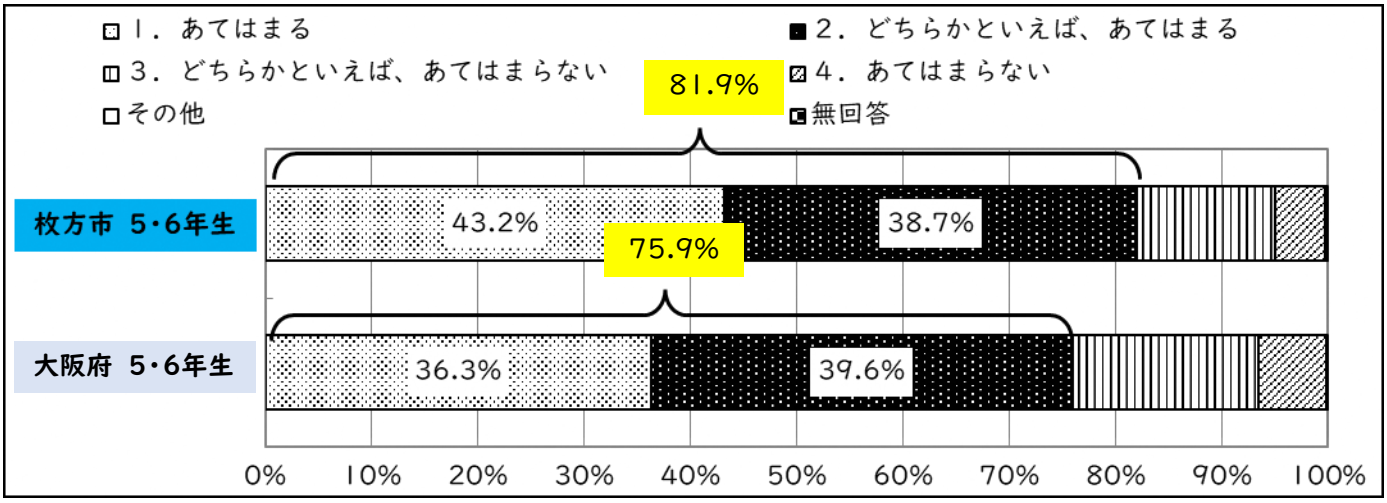
6年生理科においては、大阪府の平均をやや下回っている。
→「エネルギー」や「生命」関する設問及び知識・技能において課題が見られた。

令和8年度 すくすくウォッチの結果<児童アンケート>

その時間のめあてを意識して学習している

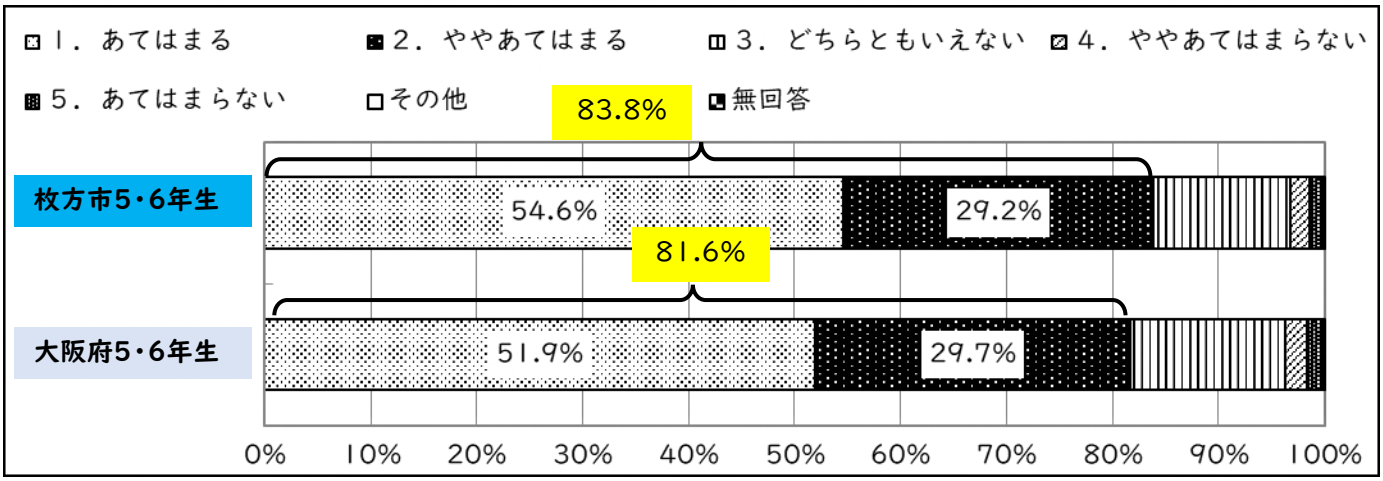


その時間に学んだことについて、ふり返りをしている

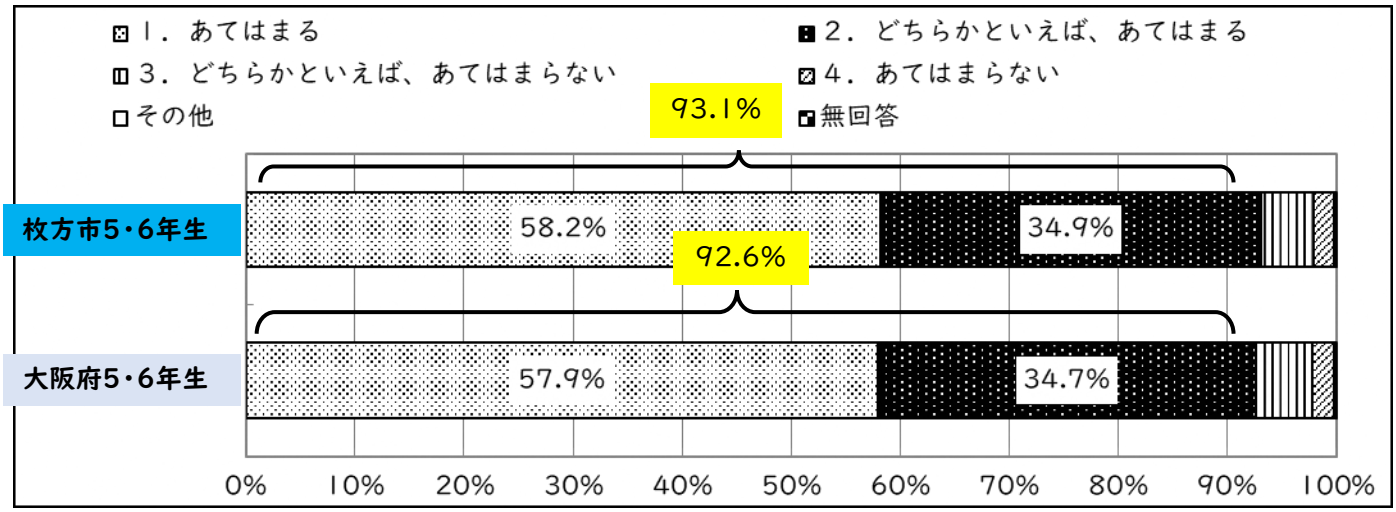


「その時間のめあてを意識して学習している」
大阪府平均+1.5P
「その時間に学んだことについて、ふり返りをしている」
大阪府平均+6.0P
見通しをもって学習し、ふり返りができる児童の割合が大阪府の平均を上回る結果がでています。

あなたの学級は、協力的である



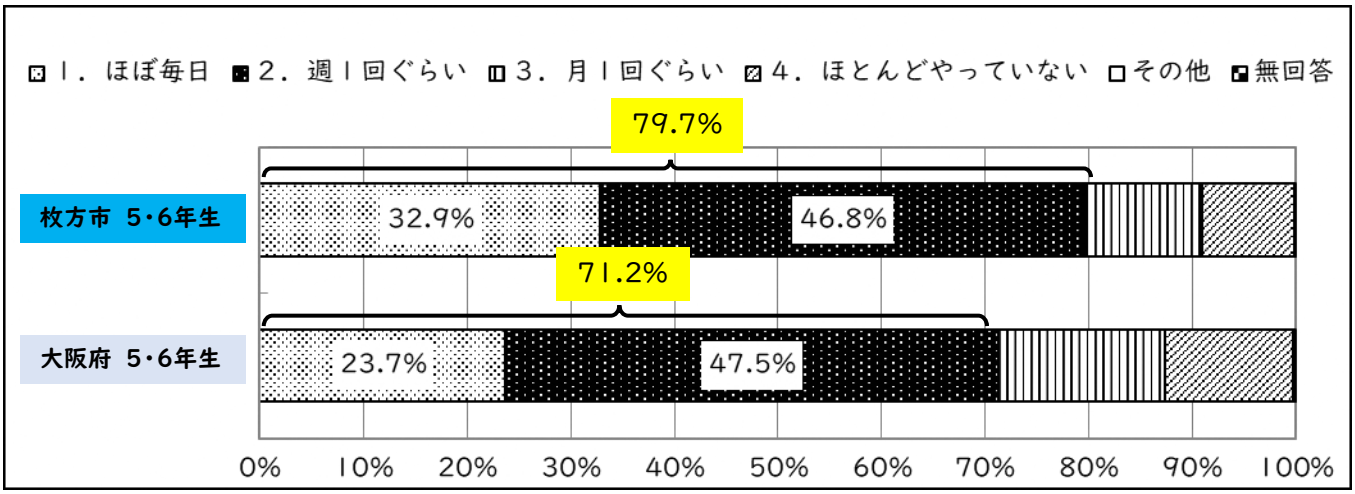
先生は、あなたのよいところを認めてくれている



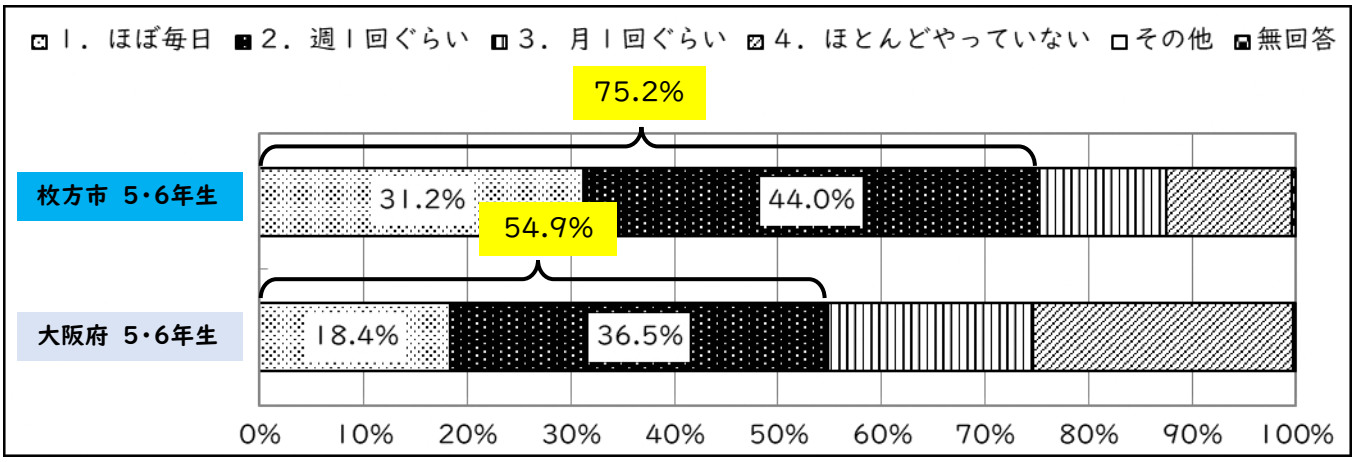
「あなたの学級は、協力的である」
大阪府平均+2.2P
「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」
大阪府平均+0.5P
教室の心理的安全性が保たれている学級の割合が
大阪府の平均を上回る結果がでています。

令和8年度 すくすくウォッチの結果<児童アンケート>

授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べることはどれくらいありますか



授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか



「授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べることはどれくらいありますか」　大阪府平均+8.5P

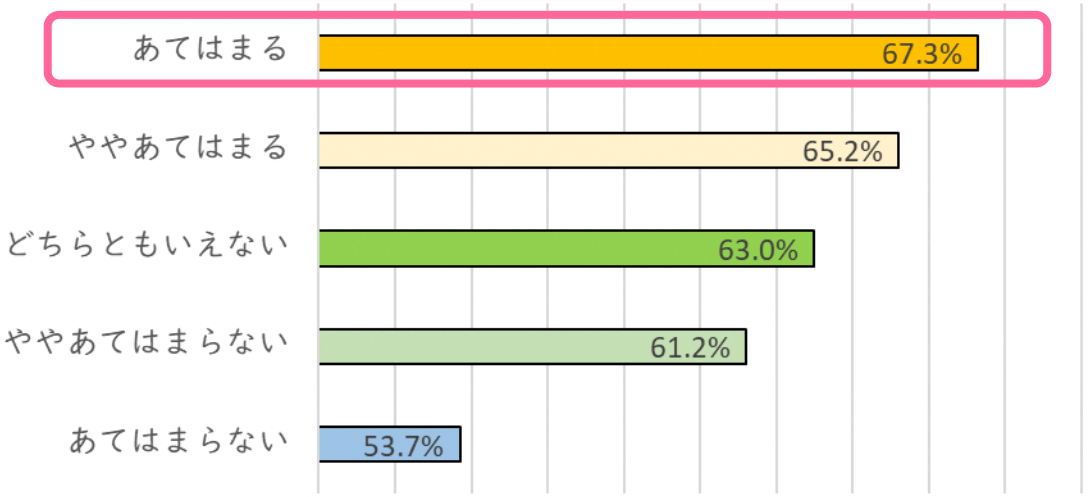
「授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか」　大阪府平均+20.3P

コンピュータやタブレットの活用について大阪府を大きく上回っています。

クロス集計 とは、アンケート結果などのデータを集計する時に、2つ以上の観点でまとめる統計手法のことです。
ここからは、設問と設問のクロス集計を行い、設問間の関連を分析しました。

①
難しいことがあっても、あきらめない。

②
わくわく問題正答率



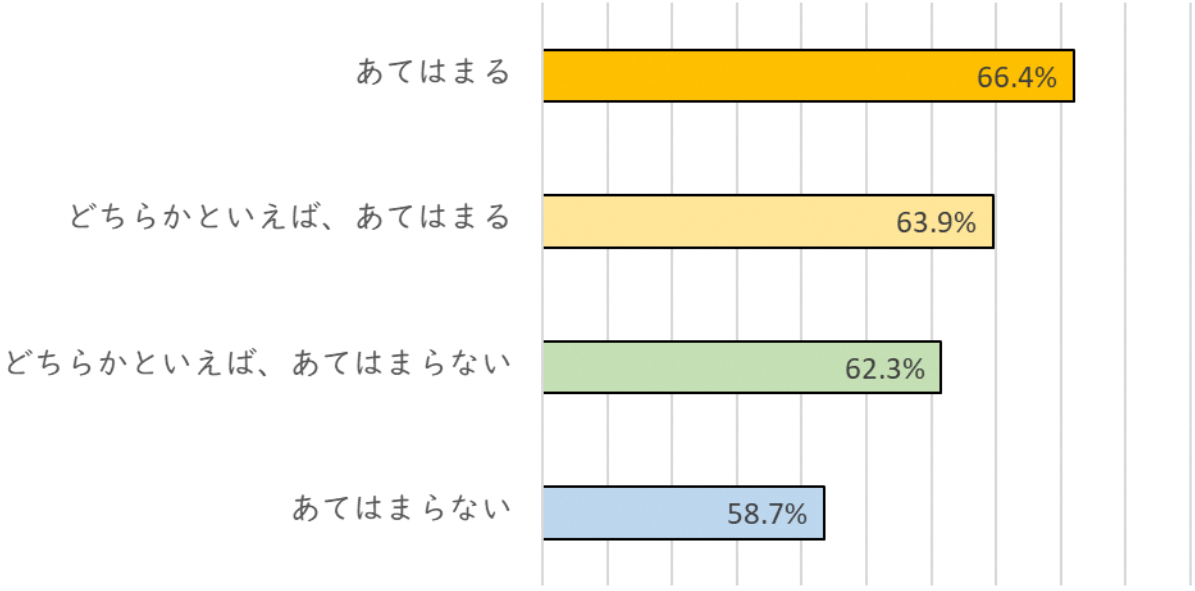
【見方】
赤い□で囲んだ部分は、①の設問について「当てはまる」と回答した児童の「わくわく問題」での正答率を示しています。
このように、「あてはまる」等肯定的な回答であるほど、正答率が高いことが分かります。



見通しを持って学び、自分の学習を確かめる人ほど、わくわく問題の正答率が高いんだね。

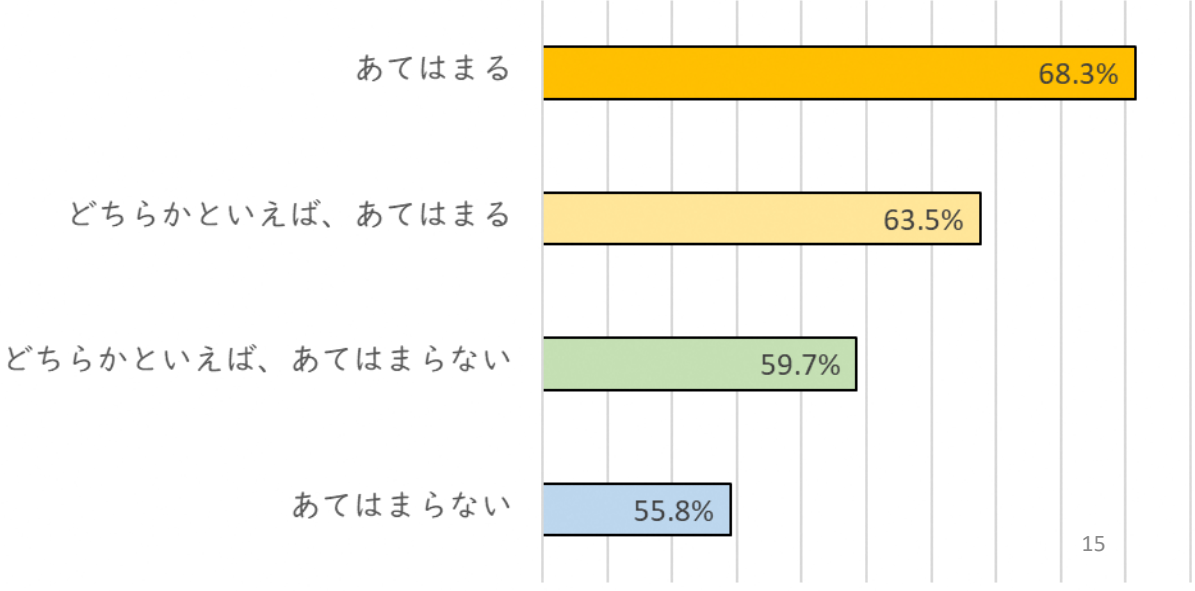
わくわく問題正答率

その時間のめあてを意識して学習している



わくわく問題正答率

その時間に学んだことについて、ふり返りをしている

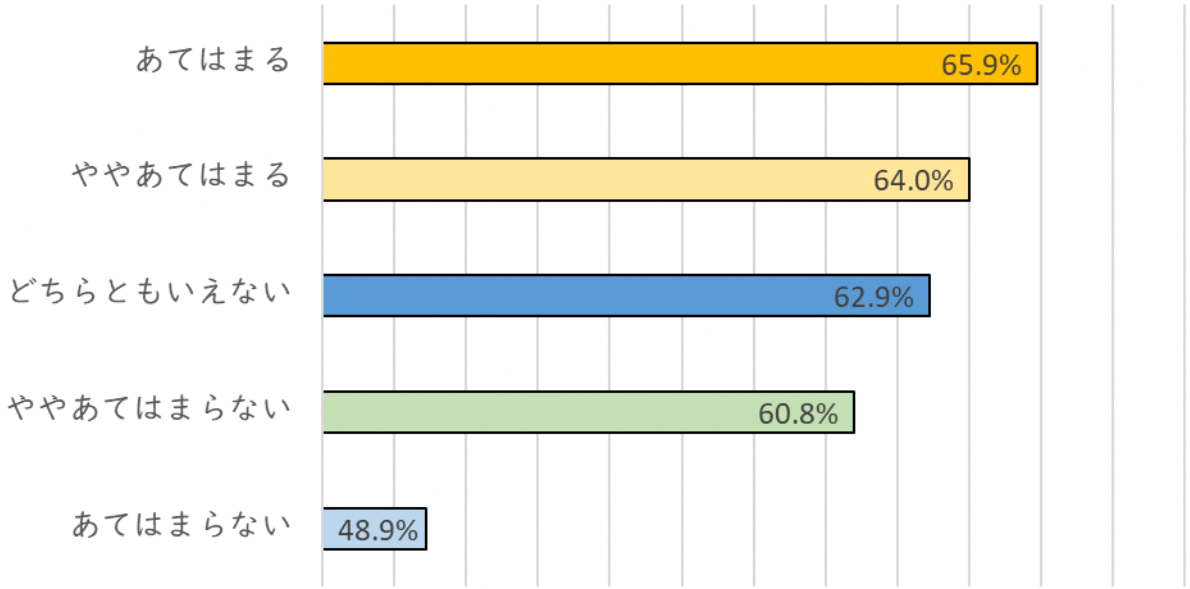




学級が安心して学べる場所であることと正答率は関係しているみたいだね！

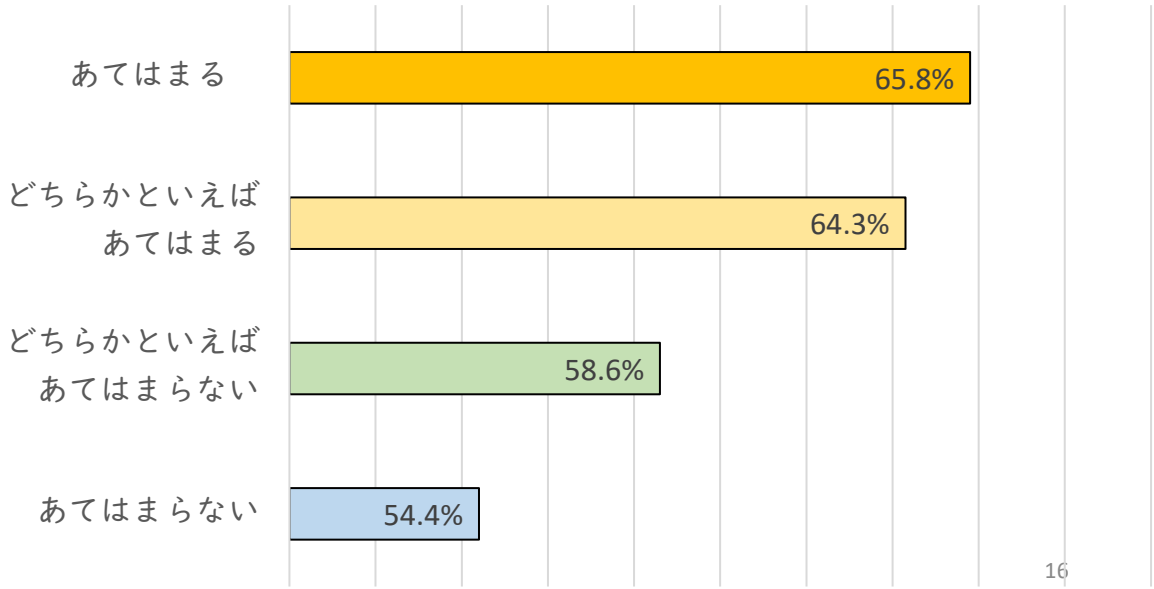
わくわく問題正答率

あなたの学級は、協力的である



わくわく問題正答率

先生は、あなたのよいところを認めてくれている

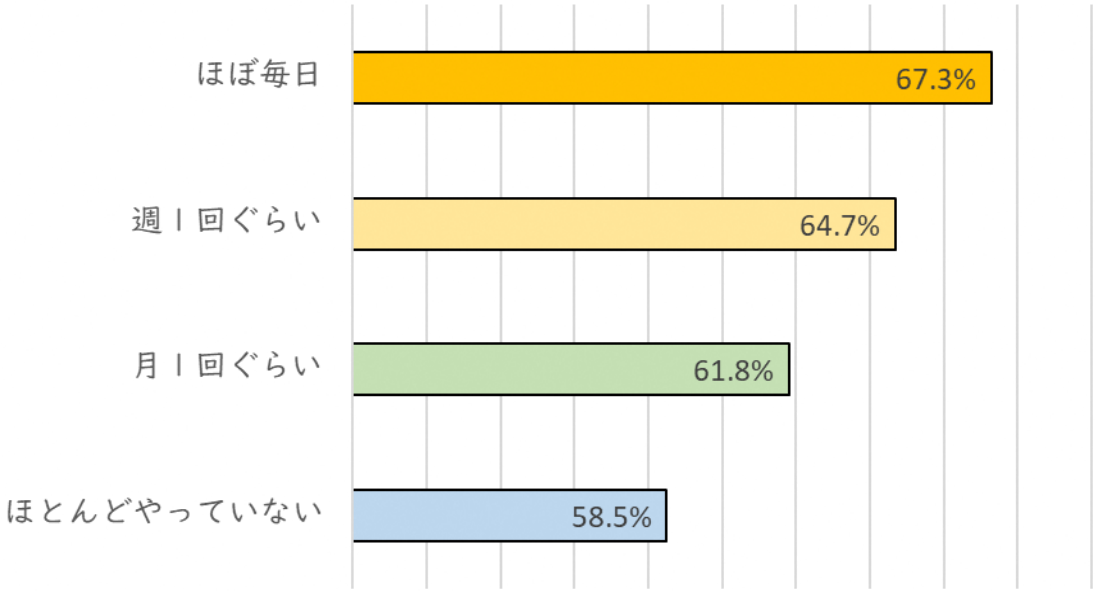




自分で必要な情報を調べたり、自分の考えをもったりすることで、考える力が身につくんだね！

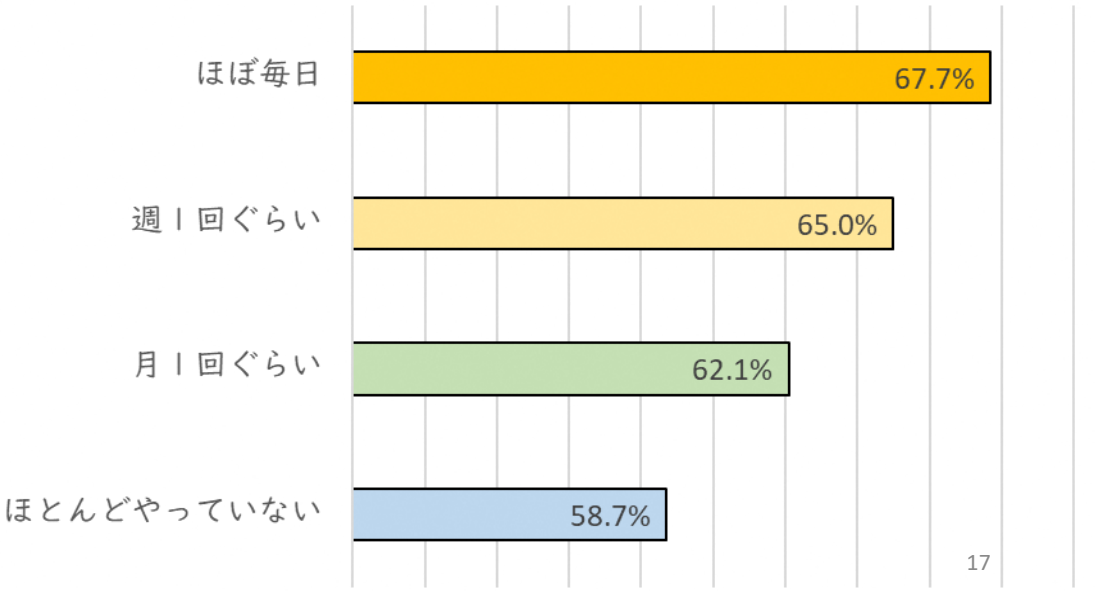
わくわく問題正答率

授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べることはどれくらいありますか



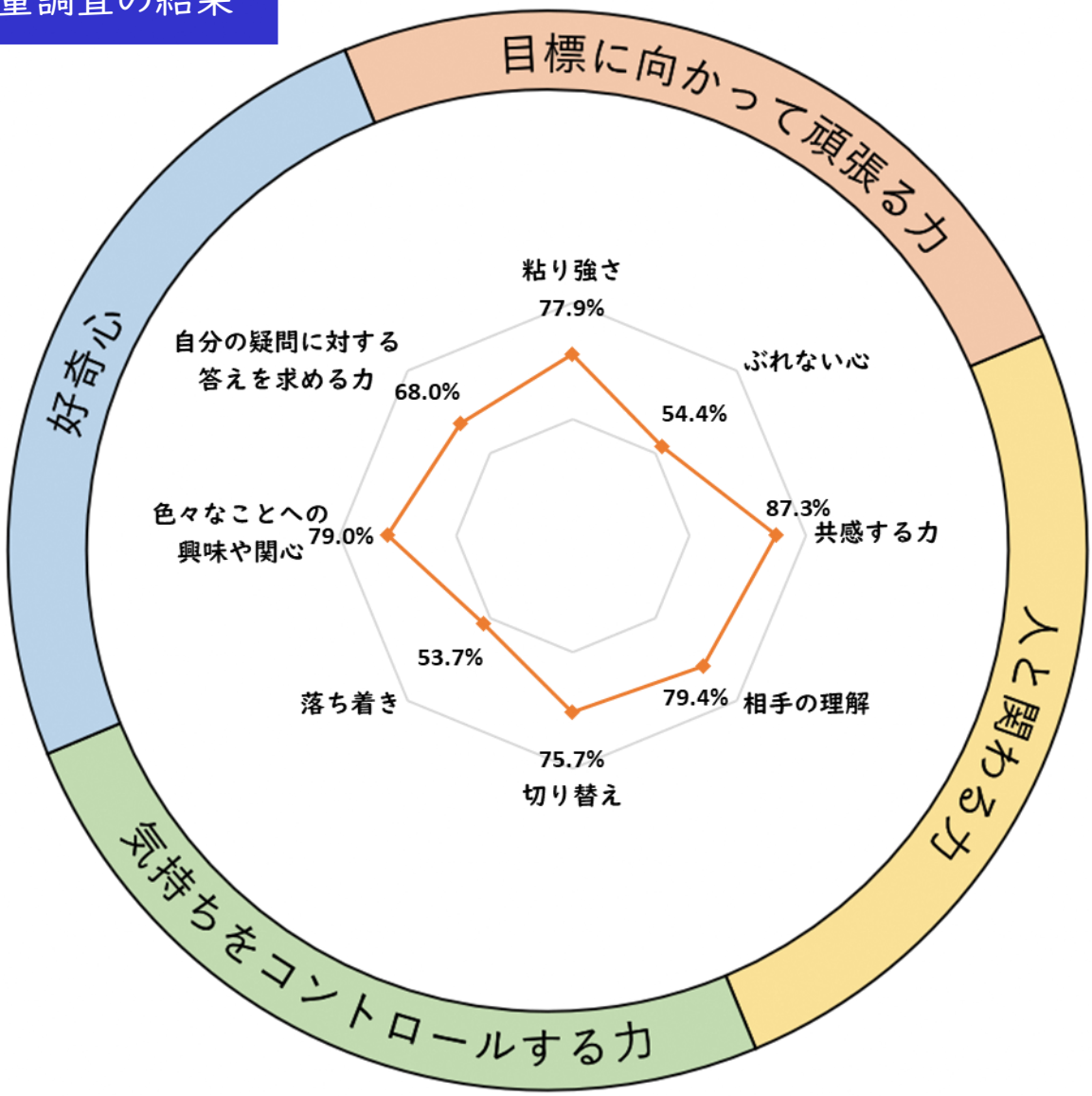
わくわく問題正答率

授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか



令和8年度 すくすくウォッチの結果

児童調査の結果



児童一人ひとりの回答から平均を算出し、その平均を項目の合計で除して百分率で換算した値
（ポイント＝平均÷合計×100）



すくすくウォッチの質問紙調査から分析した枚方市の児童の「未来に向かう力と好奇心」を表したものです。これを見ると、枚方市の子どもたちは、「粘り強さ」や「共感する力」「相手の理解」「色々なことへの興味や関心」などで高い数値を示しているのがわかります。

成果

わくわく問題では、大阪府平均を上回ったことや、国語・算数において文章や資料から必要な情報を読み取る力、既習事項を活用して課題解決に取り組む力が概ね身についていることがわかりました。

このことから、枚方市の児童には、思考力・表現力・判断力を用いて、主体的に学ぶ力が育成されていることがうかがえます。

また、学習のめあてや振り返りを重視した授業づくりやICT活用の推進、協力的な学級づくりなど、これまで進めてきた教育活動が学力の向上と豊かな学びの実現につながっていると考えられます。



課題

　すくすくウォッチの結果では、理科の平均正答率が大阪府平均を下回りました。また、国語では言語事項に関する設問、算数ではデータの活用に関する設問に課題がみられました。

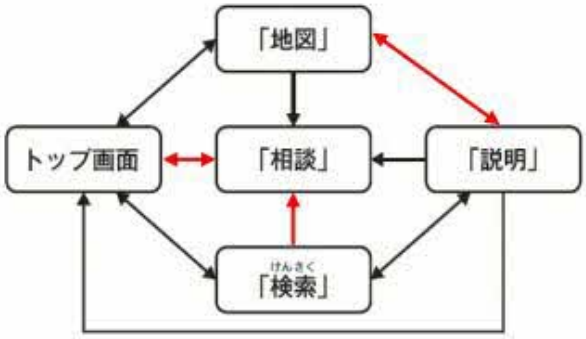
　国語については、語句の意味や使い方、文と文との関係などを正しく理解し、文章を正確に読み取る力のさらなる育成が必要です。そのため、日常的に言葉に触れる機会を充実させるとともに、文章や資料を読み取る学習を積み重ねていきます。

　算数については、表やグラフから必要な情報を読み取り、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら考える力の育成が必要です。そのためICTなどを用いて、データを活用して考察したり説明したりする学習活動の充実を図ります。

　理科については、「エネルギー」や「生命」に関する領域に課題が見られました。観察や実験の結果を基に考察したり、自然事象について根拠をもって説明したりする学習を通して、科学的に探究する力の育成を図ります。



はじめの問題の解答例は、

2	（2）	

でした！

